

特定非営利活動法人手賀沼トラスト 会報 第27号 発行日:平成25年10月1日)

「沼のほとり」

発行責任者 遠藤織太郎(TEL:04-7182-0387) 編集責任者 國方幸生(TEL:04-7184-3385)

事務所:我孫子市白山二丁目13番5号

e-mail:info@teganuma-trust.jp ホームページ:http://teganuma-trust.jp/



稲刈り、脱穀に参加して

齋 恒夫

5月18日に田植えをした収穫作業が9月14日行われた。当日はコシヒカリとマンゲツモチの稲刈りと稲架掛けの予定であったが、大型の台風18号が翌15、16日に関東地方を直撃、上陸する天気予報だったので、赤米、稀珍黒米も加えてすべての稲刈りと稲架掛けを実施することに変更して作業が開始された。80名近くの参加者を得て作業を進めたが、あまりにも天気がよく高温になったために、熱中症を心配しながら休みを取り水分補給と体力回復をしながらの作業となった。だが猛暑がきついため11時半ごろに一旦解散して午後3時ごろから再開することに急遽変更になった。午後からは本日中に作業終了のために新たに小型の稲刈り機が投入され、人力と共同で和気藹々のうちに作業が進み、明るいうちにすべての作業が無事終了し、台風の被害が最小限に収まることを念じながらの解散となった。一週間後の9月21日に脱穀作業が多数の参加者を得て行われた。コシヒカリとマンゲツモチはコンバインを使って脱穀チームで実施し、赤米、稀珍黒米は足踏み脱穀機2台、金網を使っての人力によるごみ選別、唐箕2台と箕を使っての選別チームで実施し、更に藁にお(我孫子周辺では「藁ボッチ」と云う)を積み上げるチームに分かれて作業を開始した。

台風の影響もなく初め乾燥状態が良かったので、天日干しの作業が不要となりそのまま袋詰めできた。収穫量は不明だが、天候にも恵まれて作業も順調に進み予定よりも2時間半程早い12時半にすべての作業が終了した。田んぼの周りを賑わしていた案山子もすべて抜き取り、全員の写真を撮って解散となった。私にとっては約50年ぶりの収穫作業であり懐かしかった。当時は収穫の後に、赤飯か餅をついてお酒を飲みながら米の収穫を作業従事者全員で夜遅くまで祝ったものである。

そばの播種

徳永 三伍

8月31日、そばの播種に参加しました。8月最後の土曜日、朝夕幾分涼しくなったようですが、今日も猛暑日の予報でした。8時半、担当の國方さんから「そば」についての講義があり、品種、播種、管理、収穫、そばの楽しみ方等の説明がありました。この時間はまだうす雲がかかり幾分陽射しが抑えられていましたが、猛暑が予想されるため、早速作業に取り掛かりました。今年の作付け面積は約1,400㎡、3ヵ所の圃場に参加者52名がチームごとに分かれて作業開始。

そばの栽培など一般的にはなかなか経験できない稀有のことだと思います。酷暑の中、「大変だなあ〜」と思っていましたが、圃場はスタッフの方々が耕耘機で整地済み。我々は蒔き溝を切って種を蒔き、覆土するだけ、良いところだけをやらせてもらったみたいで、これでそばの栽培経験ありと威張れるだろうかと思いました。スタッフの皆さんによって、私どもが楽しく参加できるんだと感謝しております。

そばは播種後30日ほどで開花、60日過ぎで収穫できるということで、文化の日頃が収穫、11月23日には楽しい「そば祭り」です。そばは花が素敵で、観賞だけでなく蜂の蜜源の役割も果たすそうです。昨年はそばにとって幸運の年、播種後適度な降雨があり生育がよく、何よりも台風が無く、風で倒伏することがなかったため、収量はそば粉にして150kg(作付け面積1,300㎡)と豊作だったそうです。今年も昨年並み、いやそれ以上の大豊作を望みたいものです。

秋野菜の播種

浮田 敏丸

9月7日(土)、城址下圃場(山側)に秋野菜(カブ・小松菜・水菜・春菊)の種まきをした。テキストでは、作物ごとに畝間、条間、種間が異なっているが、4種とも同じ条件にする。幅80cm、高さ10cmほどの畝に40cmの通路を確保、長さ約13mの畝を6列作る。条間は30cmで2条まきとする。圃場には畝や通路の位置を示してある。カブ・小松菜・水菜は、ネギを植え込みコンパニオンプランツの試験栽培をする。また害虫防除のため寒冷紗で覆う。春菊は病害虫に強いとされているので露地栽培とする。試験栽培と比較するため、カブ1畝、小松菜1畝には、ネギも植えずネットもしない露地栽培とする。講義はこのような要旨であった。

講義を終え圃場に向う。8月31日に種をまいたソバが10cmほどに生長、風にゆれていた。ソバの隣に畝を作る。最初の畝ができ上がると、「蒔いていい?」、「待って、全部の畝、まき溝を作ってから」、「山側の畝からカブ、小松菜、水菜、春菊の順でまきましょう」と声をする。やがて畝やまき溝ができ上がってくる。「何をしたらいいの?」、「何かやらせて」と子供さんの声が上がった。すると、どなたかが「ソバの間引きをして」と声がした。間もなく、2人の子供さんがレジ袋を片手に間引きをしていた。間引き方はどなたが教えたのか、子供さんの判断なのか定かでない。微笑ましく映った。子供さんには種まきが出来ず、残念だったでしょう。申し訳ないことをした。「ネギは先に植える、それとも後にする?」すると「後からネギを植えたら、まいた種がメチャメチャなるよ」と返事、15cmほどの間隔でネギを先に植えた。カブ2袋、小松菜2袋、水菜1袋、春菊1袋の種を残さずまいた。コンパニオンプランツの試みが問われている。まき溝に落とされた種、少し多いように思われた。

稲刈り

白鳥 晃

トラストの年間のイベントの中でも、メインの活動である稲刈りが、9月14日、会員、家族、一般の方が総勢74名参加して行われました。作業に入る前に、浅妻さんから今年の米作りの経過説明がありました。4月20日播種、5月18日田植え、8月初旬出穂、そして、本日稲刈りの日を迎えました。播種後149日、田植え後120日、出穂後45日とのこと。生育状況が良く、当初2回で刈入れを行う予定を、全て刈り取ることになりました。稲刈りはウルチ米の刈り取りからはじめ、作業は① 稲を根元から5~10cm位で刈る。② 稲を藁で束ねる。③ 束ねた稲をハザ迄運ぶ。④ 稲束をハザに掛ける。これらの作業を各チームが分担し、稲刈り、鎌を扱うのが始めての人は、ベテランに手解きを受け、穂先が黄金色に輝いた稲の刈取りは順調に進みました。季節は秋に入ったとはいえ、朝から日差しが強くこまめに休憩を取りながら作業が行われました。猛暑の中、熱中症の心配もあり、午前中で作業中断、午後3時から再スタートすることになりました。私は午後、都合で参加できませんでしたが、自然と共生する農業の厳しさを痛感いたしました。日暮満子さんから赤飯の差入れを頂きました。ご馳走様でした。

お米の収穫に参加して

七海 伊久美

9月14日、今日は田んぼ一面きれいな黄金色に輝き、稲穂が重たそうに頭を垂れている待ちに待ったお米の収穫の日です。雲がなくギラギラした日差しのため、ほんの少し動いても汗が出て、9月でもまだまだ暑さが続いています。皆さんのチームワークが良く、ドンドン稲が刈られ、藁で束ねられ、がっつりと竹で組み立てられたハザに干されていきます。暑さから逃げるため、テントの日陰で水分補給休憩をはさみながら、午前中で半分以上刈入れができました。あまりにも暑いので、午後3時から残りの稲刈りをする事になり、ゆっくりおむすび等お昼を食べました。午後からは稲刈り機が登場し、操作が大変そうでしたが、稲束を結束するまで自動で働いてくれるため、とてもはかどりました。夕方近くまでかかってしまいましたが、稲刈りが一日で全て終わりました。稲刈り後、台風が来ましたが、ハザが倒れることなく無事で

ひと安心でした。

9月21日、今日は先週ハザ架けをした稲の脱穀です。一年に一度なので、作業方法を色々と忘れてしまいます…。お米を脱穀した藁の束を編んで藁ボッチを作りました。どうしても「三匹のこぶた」の藁の家を作っている感じがしてしまいます。稲も太陽に干されて、良い感じに乾燥してるようでした。今年も沢山のお米を収穫できました。本当にお疲れ様でした！！

今年の米作り(報告)

手賀沼トラストが休耕田を再生、有機無農薬・不耕起で冬水田んぼ(冬季湛水)での米作りを初めて、今年で10年目になりました。今年の米作りは、昨年の12月初旬から湛水(タンスイ)状態を維持し、4月13日に農教室の1年次、2年次生の皆さんを中心に予措(塩水選、種子の温水(60℃)処理、種籾の浸水)から始まりました。

4月20日、昨年自家採種した種籾を育苗箱に蒔き、たっぷり灌水(カンスイ)しました。5月4日、プール育苗開始。

5月18日、田植えの日を迎えました。当日の参加者は会員と一般の方、子どもさんも含めて98名。賑やかに、楽しく田植えを終えた後、根戸城址で無事田植えが終わったことを田の神さまに感謝し、豊作を願って早苗饗を行いました。日暮満子さんから「赤飯」の差入れ、定番の女性会員に作っていただいた「豚汁」、トラスト産のそば粉を使った「蕎麦豆腐」や「蕎麦がき」を楽しみました。6月には田んぼの一部の耕盤が崩れ、漏水がありましたが、有志の皆さんの努力で修復し事なきを得ました。

7月27日から田んぼに28体の案山子が立ち並び、米作りに一役かってくれました(スズメとの共生も確立したようですが…)。9月14日、21日、待望の収穫の秋(トキ)を迎えました。稲刈りには74名、脱穀には62名の方が参加してくれました。9月とは言え、猛暑の中での作業は過酷でしたが、杉野さんからお借りした一条刈りのバインダーの参戦もあり、参加者の奮闘努力の結果、予定通り稲刈り、脱穀の作業を終えました。更に、種籾の乾燥状態も良かったことからスタッフ有志の皆さんが、籾摺りと一部精米まで行ってくれました。コンバイン、バインダー、籾摺り機、精米機等の清掃、整備は大変な作業でした。作業に従事された皆さん、有難うございました。お疲れ様でした。

今年の収穫量は、玄米でマンゲツモチ 273.0kg、コシヒカリ 210.0kg、黒米 50.1kg、赤米 20.7kg、合計 553.8kg(種籾、屑米を除く)でした。水分量が凡そ12%台でしたので、15%換算すると約570kgになります。昨年の実績は579kgでしたので、ほぼ昨年並みの豊作でした。
(事務局 國方 記)

会員コーナー

わが故郷

北村 幸子

私は北柏駅から徒歩で日暮会場まで通っています。4年前、初めて歩いたトラストへの道で、私は懐かしい故郷を思い出しました。私の故郷、大阪府四条畷市は鉄道唱歌(第5集)に歌われています。

(四) 四条畷に仰ぎ見る

小楠公の宮どころ

流れも清き菊水の

旗風いまも香らせて

(五) 心の花も桜井の

父の遺訓を身にしみて

引きは返さぬ武士の

戦死のあとは此土地よ

四条畷市は、生駒山脈の北の端、奈良県との境にあります。飯盛山(318m)は桜の名所、四条畷神社から登山道があり、山頂から尾根道を進むと、野崎観音へ。山頂からは大阪平野が一望です。四条畷駅から楠公通りを左へ行くと、小楠公墓地、楠正成の子、正行と正時が四条畷の戦いで高師直らに敗れ自刃しました(1348年)。

また、東高野街道(京都東寺から高野山金剛峯寺)が横切ります。

今年の4月母が亡くなり、故郷が無くなったようで寂しい気分でした。でも、幼なじみ、近所の人々から暖かい言葉を掛けて頂き、また叔父、叔母から心温まる便りが届きました。故郷は心にありと思えました。母はよく云ってました。「ここはええとこやで」、そして90歳を過ぎて「まあ一いもののおかげで生きられる、ありがたいな」、私はお金かと思いましたが、「まあ一いもの」は太陽でした。母は日々自然に感謝していました。

故郷ありがとう。飯盛山、沢山の小川、土筆、れんげ摘み、盆おどり、お祭り、水田、田植え、稲刈り、脱穀、母の手料理(さつまいもの白和え、巻き寿司、鯖寿司)、そして名物、たこ焼き、はも料理。それが私の生きる力となり楽しく暮らせます。

子供達が自然と共に暮らせる手賀沼のほとり、故郷を残したい、守りたいです。お父さん、お母さん“手賀沼のほとりもええとこよ。”

● 10月～11月度 活動計画(全会員が対象の「合同活動」、「イベント」に「網かけ」をしています。

活動日	開始時間	活動区分	活動内容	担当部門
10 5 土	13:00	会議	事務局スタッフMeeting	事務局
10 6 日	8:30	定例活動	根戸城址通り清掃、活動場所管理	環境保全G
10 12 土	8:30	農教室	サツマイモ、ラッカセイ収穫、圃場管理	農事・農教室G
10 20 日	8:30	定例活動	根戸城址通り清掃、活動場所管理	環境保全G
10 24 木	9:00	竹教室		々
10 26 土	8:30	農教室	サトイモ、ヤツガシラ収穫	農事・農教室G
10 27 日	16:00	会議	15PJTMeeting(けやきプラザ10階)	15PJT
	18:00	会議	H25 年度第 7 回定例理事会(けやきプラザ 8 階)	事務局
11 2 土	8:00	合同活動	そば刈入れ、ハザ掛け	農事・農教室G
11 3 日	8:30	定例活動	根戸城址通り清掃、活動場所管理	環境保全G
11 9 土	8:30	合同活動	そば脱穀、ハザ解体、後片付け	農事・農教室G
11 17 日	8:30	定例活動	根戸城址通り、活動場所管理	環境保全G
11 22 金	9:00	合同活動	そば祭り準備	交流事業G
11 23 土	9:00	合同活動	そば祭り(スタッフは 8:00 集合)	交流事業G
11 27 水	9:00	竹教室		環境保全G
11 30 土	18:00	会議	H25 年度第 8 回定例理事会(けやきプラザ8階)	事務局

「感謝の宴」開催について(ご案内)

恒例の「感謝の宴」を下記の通り開催いたします。
イベント開催時の準備や後片付け、日常活動の中で、目に見えないところで、何かと気配りをして、私たちの活動を支えて下さっている女性会員の皆様に感謝の印として、「男の手料理」と北海道幌加内産の「新そば」(きたわせ)で「お・も・て・な・し」をしたいと思います。ご都合のつく方、是非ご出席下さい。

記

日時：10月11日(金) 13時～15時
会場：けやきプラザ8階 第一会議室
申込：川瀬さん、中野(和)さんまでお願いします。

以上

蕎麦勉強会一同

訃報

当法人の会員、柴本三弘様におかれましては、平成25年9月14日ご逝去されました(享年71歳)。

葬儀、告別式は9月16日に執り行われました。

ここに故人のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせいたします。なお、下記の通り、「我孫子野鳥を守る会」「鳥博友の会」「手賀沼トラスト」の有志で、「故柴本三弘さんを偲ぶ会」が行われますのでご案内いたします。

記

日時：平成25年10月14日 15時～17時
場所：「庄や」我孫子北口店
会費：4,000円

出席を希望される方は事務局(國方)までご連絡下さい。

以上

「にこにこカレンダー」の予定変更について!

年度当初8月24日に予定していたそばの播種が、案山子祭りとバッティングしたため、1週間遅らせて、8月31日になりました。そばは「花を見て刈れ」という格言がありますが、種を蒔いてから、60日～65日に刈るのが一般的です。播種から1ヶ月経過し、そば畑には白い可憐な花が咲きそるい順調に生育しています。合同活動でのそばの刈入れを「10月26日」から「11月2日」に変更しますのでお知らせいたします。

11月23日には収穫した新そばを打って「そば祭り」を開催します。今年は15周年記念の年、楽しい企画が準備されているようです。お楽しみに! (事務局)

編集後記

◆ 9月19日は秋の社日、春に山からやってきて、作物を实らせてくれた田の神さまが、秋に山へ帰る日といわれている。土地の産土神を祀る社へ豊作を祈り感謝する日だ。今年も豊作だった。田の神さまに感謝。

◆ 伊勢の神宮では二十年に一度の式年遷宮が10月2日、5日に行われる。戦国時代に一時中断はあったが、1300年の歴史を誇る。20年のサイクルは知識や技術、技能の継承に絶妙のタイミング。日本人の英知を感じる。

◆ 10月、11月は収穫の時期、サツマイモ、サトイモ、秋冬野菜、そしてそばの収穫。15周年記念事業の最後を飾るイベントが控えている。どんな企画が飛び出すか、今から楽しみだ。(國方記)